

高嶺小学校移転整備に関する地域説明会 議事録

2025年8月24日（日） 10時～11時40分 於：糸満市役所 3-c 会議室

参加者：18人

糸満市：教育長、教育部長、教育総務課長、教育総務課施設係長、同施設係3名、生涯学習課長、同文化振興係1名

受託者（(株)国建）：3名

①説明会の周知方法について

- **質問:** 説明会の開催をいつ、どのような方法で周知したか。参加者が少ないし、高嶺小学校に通う保護者に声をかけたが開催を知らない人が多かった。保護者への連絡手段となっているテトルアプリを利用してほしい。また、来られなかった人のために今日の資料もアプリで配布してほしい。
- **回答:** 自治連絡委員会議を通じて、小学校・中学校の通学区域内の全10地区の広報誌に、8月5日頃に折り込みを依頼した。市のホームページにも説明会の内容とチラシ資料を掲載し、周知を行った。保護者への周知が不十分だった点については事務局の不手際であり、申し訳ない。次回以降は、今回の意見を踏まえ、学校と連携し保護者向けアプリを活用するなど、より適切な周知方法を検討する。

②説明会の会場について

- **質問:** なぜ説明会の会場が市役所なのか。地域から遠く、参加しにくいという声がある。
- **回答:** 当初、駐車場の広い農村環境改善センターも検討したが、予約が取れなかったため市役所で開催した。今後、地域から要望があれば、改善センターの使用も検討する。

③入札不調の原因説明と責任について

- **質問:** 令和4年度の2度にわたる入札不調について、その原因はこれまで住民や保護者に説明されたのか。意図的に説明を避けたのか。なぜ百条委員会で審議されているのか。入札不調による約1億1500万円の設計費用が「無駄になった」と報道されたが、この市民の税金は返金されるのか。入札不調の原因を市民に明確にしない限り、今回の説明会は意味がない。入札不調による事業遅れは市民の生活にも大きな影響を与えている。誰が責任を取ったのか、給与カットなどの処分はあったのか。市顧問弁護士からも不適切との見解が出されたと聞かすが、市が出した予算と世間の積算額に大きな乖離があったのはなぜか。
- **回答:** 入札不調の具体的な原因に特化した説明会は開催していない。百条委員会で審議されているのは、入札不調の原因とその対策についてである。入札不調の原因は、教育委員会が立てた予算と実際の設計金額との間に大きな乖離があったため。意図的に説明を避けたわけではない。前回の説明会は、入札不調を受けて計画が見直しになったというところで行ったと思う。予算の執行側である教育委員会が返金について答えるのは難しいが、一般的に行政活動における支出は適切なものであれば問題ないと考えている。前回の設計については、できる限り再利用する方針である。また入札不調に関して、個人に対して直接的な責任（給与カットなど）を負わせるという考えはなく、組織としての教育委員会が全体責任を負うべきだと考えている。

④教育長の見解と学校の現状について

- **質問:** 教育長は1期目で「子どもたちが安心安全に学べる環境を作るのが仕事」、2期目で「環境改善を継続するのが仕事」と述べていた。しかし、現在の高嶺小学校の老朽化、草木の繁茂、壁のひび割れ、鉄筋の露出、狭く荒れた運動場の状況は、教育長が求めていた学校環境なのか。
- **回答:** コメントの通り、子どもたちの安心安全な学校生活が第一の重要事項である。現在の高嶺小学校の校舎が古く、プレハブ校舎へ移った後も他の校舎の老朽化が進んでいる現状は認識している。調査を行い、怪我のないよう改修を行っているが、満足できる状況ではないことは承知している。今後も子どもたちの安全と学べる環境を目指し、貴重な意見として真摯に取り組む。

⑤仮設階段での事故責任について

- **質問:** 小学校の児童が中学校グラウンドへ体育の授業を受けに行く際に仮設階段を利用しているが、あれでは危ない。もし事故が発生して怪我をした場合の責任は教育委員会、学校、先生のどこにあるのか。
- **回答:** 仮設階段の件は先日の住民説明会や学校からも指摘があり、現在対応を手配している。事故が発生した場合、教育委員会の責任と考えている。

⑥説明会の議事録作成について

- **質問:** 今までの説明会の議事録は作成されているのか。
- **回答:** 前回の基本計画策定に各公民館や学校などで行った地域説明会については、議事録を作成している。

⑦本事業の糸満市における優先順位と教育委員会の姿勢について

- **意見・質問:** 教育委員会が苦勞しているにもかかわらず、市のプロジェクト優先順位が低いと感じる。教育委員会は市に対して独立した組織として、高嶺小中一貫校の早期整備を強く求め、住民にその意気込みを伝えるべきではないか。市長の施政方針演説で高嶺小中一貫校の改築工事の言及がなかったが、教育委員会として、文言を盛り込むよう市長に意見を具申したのか。

また、本日の資料では費用圧縮を前提と位置付けられているが、教育や子どもたちの成長のためには予算が足りなくても、良いものを建てるという姿勢で取り組むべきではないか。少なくともこの前提は取り消していただきたい。他の事業（キャンプ誘致や社会福祉施設の建て替えなど）には予算が投じられているのに、高嶺小中一貫校はなぜ優先されないのか。金がないという発言は意見を封じるものでありたくない。

このようなことが続き、市民にはあきらめ感、もう小中一貫校でなくてもいいという声も出てきて無関心になりつつある。糸満市全体にとって重要な課題であるため、市民を巻き込み、失敗をさらけ出して協力を求めるべき。真栄里地区開発を優先していることに疑問がある。しっかり早急に安全に取り組むことを要望する。

- **回答:** 学校の移転や改修のような大規模な事業では、多額の費用が発生するため、財政や企画部門と十分な議論が必要であると認識している。過去の経験を踏まえ、市に学校施設整備のあり方を十分理解してもらえよう、連携と調整を密に行っている。施政方針演説への意見具申については、現時点では記憶がなく、確認する。

現計画の見直しにあたり、市長から費用圧縮の検討を指示されている。しかし、中学校校舎の改築などで費用は増額すると認識している。財政部局には初期段階から概算費用を示し、将来の財政計画や実施設計の中で必要な費用を確保できるよう調整しているところである。住民意見を取り入れ、前回の反省を踏まえて今回の説明会を開催している。教育委員会としては、高嶺小学校の整備を優先課題と認識している。市民からの意見は市長に報告する。重要案件については市長と調整会議を行っており、今回の説明会内容も教育長及び教育総務課が市長に伝える。市民の税金を預かっている立場として、 unnecessary 支出は避け、必要などころに予算を投じるよう努力する。

⑧災害時の対応について

- **質問:** 新しい事業計画には、災害時の避難計画、炊き出し場所、周辺住民の安全確保スペースなど、防災に関する項目が盛り込まれているか。
- **回答:** 現在の基本計画では、まだ防災に関する計画は盛り込まれていない。この計画は移転と配置の枠組みを決めるものであり、防災に関する検討は、この後の基本設計、実施設計の段階で行う。

⑨市長の住民説明会参加について

- **質問:** 説明会では、最終決定権者である市長の考えを直接聞きたい。今後、市長が住民説明会に参加する予定はあるのか。
- **回答:** 現時点では市長の参加は予定されていない。この計画は教育委員会の業務であり、教育委員会が説明を行う。市民からの意見は市長に報告する。

⑩用地の拡張について

- **意見:** 今の学校の状況では環境整備がなっていない。運動場整備、小学校から中学校への動線の整備をしっかりとしてほしい。用地の拡張については、前回計画の段階からロ案とハ案の合体をお願いしていたが、今回やっとロ+ハ案が出てきたことを歓迎する。学童の計画もあって良い。この方向で進めてほしいと思う。また今回は、前回と違い委員会の前に地域説明会で意見を聞くということでありたいへん良い形である。

⑪拡張用地の財源について

- **質問:** 用地が広がったことで、多額の費用がかかると思う。補助金は利用できるのか。
- **回答:** ソフト一括交付金の活用を検討している。文部科学省の補助金は主に建物が対象で、外構工事などにはあまり適用されないが、ソフト一括交付金は沖縄振興関連の事業であれば可能性があり、まだ確定ではないが現在調整中である。ただし、土地購入に国庫補助金が出にくいことは認識しており、市の負担を減らすため最大限の努力をする。

⑫小学校運動場の整備について

- **意見・質問:** 昨年、高嶺小学校の運動会は体育館で行われたが不本意。小学校の運動会を現行のグラウンドで実施できるよう、中学校のグラウンド整備を含め、早急な対応を求める。また、市が不急の事業に予算を投じている一方で、学校施設の整備が遅れている現状を市長に伝えるべきである。
- **回答:** 教育総務課の施設担当として、各学校の先生方と連携しながらグラウンドの整備や利活用について調整している。今年の高嶺小学校の運動会については、学校からの要望を受けて、現グラウンドで実施できるよう、草刈りなどトラック整備工事を急ぎ行い、学校と開催

時期を含めて調整を進めている。中学校のグラウンド整備についても、学校運営に支障がないよう、先生方と連携して進めていく。

⑬発言者の氏名を求めることについて

- **意見:** 司会からは、発言の際に氏名を述べてくださいとあったが、個人名を明かすと積極的な意見が言えない方もいると思う。氏名はできる範囲で述べる形にしてほしい。

⑭児童生徒数の設定について

- **意見:** 現状ベースを基準として規模設定することは評価する。真栄里の開発はまだ何も実現していないし、むしろ教育を優先してほしい。

⑮説明資料の文言訂正について

- **意見:** 説明資料では「事業規模の縮小」を前提としているが、あとの方では敷地の拡大や中学校棟の改築が盛り込まれているので規模は拡大するはずで、矛盾している。予算に合わせて学校をつくるのではなく、必要なものはしっかり整備すべきである。市はよくお金がないというが、納税している市民としては納得できない。そうした言い方は今後一切しないでもらいたい。
- **回答:** 費用圧縮という文言については、市長からの指示によるものだが、必要なものは実施していきたいと考えており、文言の修正も検討する。

高嶺小学校移転整備に関する地域説明会

2025年8月27日（水） 19時～20時10分 於：糸満市役所3-c会議室

参加者：13人（ほか取材2名）

糸満市：教育長、教育部長、教育総務課長、教育総務課施設係長、同施設係3名、生涯学習課長、同文化振興係長

受託者（(株)国建）：2名

① 拡張敷地の決定と配置案について

- 質問： 拡張敷地は決定したのか。
- 回答： まだ完全には決定しておらず、今回の地域説明会での賛同や今後の検討委員会での承認を経て、ほぼ方針が決定していく見込み。現在の提案は、文化財の影響を考慮し、拡張敷地（ロ+ハ案）に小学校・中学校校舎を建設し、現在のグラウンドを維持する案が理想的かつコスト面でも有効と評価したもの。将来、耐用年数経過後に、既存の管理棟や体育館も文化財の影響で移転が必要になる可能性があり、その配置も想定している。
- 意見： 最初から体育館なども移転する考えで設計すべきではなかったか。また、今日の計画図では小学校が3階建てとなっている。近年、子供たちが外に出たがらない傾向があるが、計画地の周りは畑が多く、土地を広げやすいはずなので、2階建てにするなど低層で外で遊びやすい環境を作るべきではないか。
- 回答： 予算的な問題もあるが、余裕のある教育環境の整備について、検討委員会で対応を検討する。

② 過去の質疑と進捗状況について

- 質問： 過去3回の説明会で同じ質問が繰り返されている。重複を防ぐため、これまでの質問とそれに対する対応状況を具体的に教えてほしい。
- 回答（日曜日開催の説明会での主な質問とその回答）：
 - ・開催周知方法： 保護者への通知が不十分との指摘。住民へは広報誌への折り込みや市ホームページで周知。今日の会については、学校連絡アプリを通じて保護者に追加で通知を依頼した。
 - ・会場が市役所になった理由： 駐車場の確保を優先し、また改善センターは日程が合わなかったため、距離は遠いが市役所で開催。
 - ・事業遅延の原因と説明： 現在、糸満市議会の百条委員会で審議中。原因については状況を見て説明会を検討したい。
 - ・入札不調責任の所在： 教育委員会に原因があり、教育委員会が責任を負う。個人ではなく、教育委員会としての責任。
 - ・仮設階段の危険性： 小学校から中学校グラウンドへの仮設階段の段差による危険性について指摘があった。改善対応中。事故発生時の責任は教育委員会にあると認識。
 - ・高嶺小中学校移転改築事業の市における優先順位： 市全体の事業優先度は教育委員会では判断できないが、高嶺小学校改築は教育委員会にとって最優先課題。
 - ・新校舎の災害時対応： 今回の基本計画は主に配置等に関するものであり、災害時対応は今後の基本設計・実施設計で検討する。

- ・説明会への市長の参加： 今回の事業は教育委員会の管轄であり、現時点では市長の参加は考えていない。
- ・小学校運動会について： 体育館開催で不便だったとの意見。中学校グラウンド整備を含め、早めの対応を要望。教育委員会の担当と学校が連携し、小学校グラウンド利用での調整を進めている。今年度は学校からの要望を受け、小学校グラウンドのトラック整備を急遽調整中。

③ 今後の進め方について

- 質問： 今後の進め方（フロー図）における、第2回幹事会・地域説明会・委員会までの具体的なスケジュールは決まっているか。
- 回答： 第1回検討委員会は10月1日に予定。検討委員会には大学教授、区長、PTA、学校長、庁内部長などが参加し、地域説明会の意見も報告して議論する。基本計画は今年度中の策定を目指しており、月に1回程度の会議を開催し、年内にまとめ上げるスケジュール感で動いている。

④ 過去の計画からの経緯について

- 意見： 前回の計画策定時にも市道側への用地拡大を要望したができなかった。今回拡大されたのは良いことだが、なぜ前回できなかったのか。報告書まで作って進めていたものが頓挫し、また新しい案が出てきたことに釈然としない。児童生徒数の増加も想定できたはず。
- 回答： 以前の計画では、土地取得や手続きに時間がかかることを考慮し、現中学校敷地での建設を優先したため、あのようになった。今回は、文化財発掘調査の進展、真栄里地区開発による児童生徒数増加の可能性（以前は暫定的な数値が示せなかった）、中学校特別教室棟の耐力不足が新たに判明したことなどを踏まえ、市道側を含む敷地拡張と新敷地への小中学校移転を提案しており、これを検討委員会に上げて計画していきたい。また今回は、前回の反省を踏まえ、方針決定前に地域住民の意見を聞く形式に変更している。

⑤ 計画の推進について

- 意見： 現在の計画は大丈夫か。入札が流れたり、小学校の運動環境が悪かったりする。今の何年生かの子供たちは、この状況が続くのはかわいそうだ。ぜひ円滑に進めてほしい。また整備中に運動場が使えないことについて、以前の意見交換会では「校外の会場を借り、バスを出すことも検討する」と説明があったが、非効率であり実際今年も話にも出てきていない。いつまでに整備できるのか、具体的な計画をしっかりと示してほしい。
- 回答： 次回の地域説明会で、暫定的なスケジュール（土地購入、開発行為申請、予算措置、工事期間など）を提示予定。前回の予算の問題を教訓に、今回は財政課等と綿密に調整し、より適切に費用を見込めるよう取り組んでいる。小学校のグラウンド縮小については危険建物対応のための仮設校舎設置に伴うもので、期間が短くなるよう早期移転改築を進める。
- 質問： 土地所有者との交渉がうまくいかない場合、計画は再び遅延するのか。
- 回答： 交渉がうまくいかなければ遅延や代替案の検討が必要になる可能性はある。現段階では地権者と細かい調整はしていないが、前回、ハ案の土地所有者には測量を機に計画を

説明しており、好意的な感触を得ている。今回、地域の区長も検討委員会に入るため、そこで承認を得た後、ロ＋ハ案で拡張することを地権者に説明し、交渉を速やかに進めたい。

- 質問： 基本計画策定後に工事などが進むという理解で良いか。最終的な完成時期はいつ決まるのか。
- 回答： 基本計画で基本的な方針を決定後、基本設計、実施設計、工事へと進む。完成時期の目安は、次回説明会で基本設計や工事に要する期間を含めた概算スケジュールとして提示する。
- 質問： この予算には畑の買い取り費用なども含まれるのか。今まで計画が伸びているのは予算がネックになっている部分もあると思うので、余裕を持たせて予算を組んでほしい。地権者との交渉、資材費や人件費の上昇なども考慮し、柔軟な予算組みをお願いしたい。計画が策定された後に予算不足で再度見直しとなるのは最も避けたい事態だ。
- 回答： 概算事業費には、工事費・用地費のほか土地鑑定費用、設計費（基本・実施）、工事監理費、造成費等を見込んでいる。物価高騰（統計データ等により年10%程度の工事費上昇を予測）や最低賃金の上昇も考慮し、より正確な概算金額の算出に努めている。
- 質問： 計画フローの「関係者調整」は、畑の地権者との買収交渉のことか。
- 回答： はい。まず地権者へロ＋ハ案の説明を行い、協力をお願いしつつ、次回幹事会、地域説明会、委員会で事業スケジュールと整備金額を提示し、承認を得たいと考えている。

⑥ 小学校校舎の危険性について

- 意見： 古い小学校校舎（危険建物）をそのままにしておくのは地震時を考えると非常に危険。使用中の施設と距離が近いので、倒壊時には周囲に被害が及ぶ可能性が高い。構造を踏まえた検討とともに、早期解体・予算化を強く要望する。
- 回答： 小学校中棟は危険建物であり、仮設校舎で児童は授業を行っている。安全対策としてバリケード・ネットを設置している。解体時期については、文化財の問題やインフラ（下水道、水道、電気）の切り回し調整が必要で、時間がかかっている状況。

⑦ 拡張敷地と配置の案について

- 事務局からの確認： 拡張敷地の場所（ロ＋ハ案）と小・中学校校舎を拡張敷地に移転する方針、また将来的に体育館や管理棟・プールも移転という考え方について、地域住民に異存はないか。
- 回答： 個人的には、南山城跡が文化財となり価値があるものになってほしいと思っているので、文化財保存のために体育館やプールが移転する方針には賛成。
- 質問： 将来的に現在のグラウンドは残るのか。拡張敷地にメイングラウンドが移る可能性もあるのか。
- 回答： 現時点では、老朽化した小中学校校舎の移転が最優先。既存の体育館、管理棟、プールについては耐用年数が来た際に拡張敷地へ移転させ、その後文化財の発掘調査を進める。既存グラウンドも今後の発掘調査の影響を受ける可能性はあるが、当面は現状維持で使用する。最終的には発掘調査の結果によって判断されるが、既存グラウンドは過去にも調査されているため、重要な文化財が出る可能性は低いとの認識。

- 事務局からの最終確認： 第3案（拡張敷地への校舎配置）で検討委員会へ進めることで問題ないか。 →異議なし